

令和6年度 社会《第2学年》年間指導計画

担当（松尾 宏樹・中村 浩）

社会 教科の目標
 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する。

社会 第2学年の目標
 地理 (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
 (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
 (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
 歴史 (1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
 (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
 (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

※【知】は「知識・技能」、【思】は「思考・判断・表現」、【態】は「主体的に学習に取り組む態度」 松尾が週2時間担当し、歴史的分野及び地理的分野、中村が週1時間担当し、地理的分野を担当

月	単元名	学習内容	評価規準	評価資料
4 5 6 7	【歴史的分野】 第3章 近世 武家政権の展開と世界の動き (19時間)	○戦乱から全国統一へ ○武士による全国支配の完成 ○天下泰平の世の中 ○社会の変化と幕府の対策	【知】 ○ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつくられたことを理解している。 ○江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 ○産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。 ○社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。	【知】 A・B
			【思】 ○交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ○近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	【思】 A・B・C
			【態】 ○近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	【態】 A・B・C・D
8 9 10 11	第4章 近代（前半） 近代国家の歩みと国際社会 (26時間)	○欧米諸国における「近代化」 ○開国と幕府の終わり ○明治政府による「近代化」の始まり ○近代国家への歩み ○帝国主義と日本 ○アジアの強国の光と影	【知】 ○欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。 ○開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。 ○自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、日本の国際的な地位が向上したことを理解している。 ○日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。	【知】 A・B
			【思】 ○近代前半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している	【思】 A・B・C・D
			【態】 ○近代前半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	【態】 A・B・C・D・E

4 5 6 7 8 9 10	【地理的分野】 第3部 第1章・第2章 日本のさまざまな地域	○身近な地域の調査 ○日本の地域的特色	【知】 ○地図や景観写真、統計資料などを的確に読み取る技能や、地域調査を行う際の視点、方法を理解している。 ○日本の地域的特色を、自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信の視点から、写真、図版、地図、気温図など、さまざまな資料を適切に選択して読み取り、理解している。	【知】A・B
	(19時間)		【思】 ○対象地域の地域的特色や課題をとらえるために適切に地理的事象を取り上げ、それらを多面的・多角的に調査、考察している。 ○日本の自然環境や人口、資源・エネルギー、産業、交通・通信などの地域的特色が、どのように変化し、どのような課題を抱えているのか、多面的・多角的に考察し、表現している。	【思】A・B・C
			【態】 ○対象地域の特色や課題を主体的に追究している。 ○自然災害への対応や人口減少に伴う少子高齢化など、身近な地域や生活との関わりに着目して、日本の地域的な課題について、主体的に追究しようとしている。	【態】A・B・C・D
11 12 1 2	第3部 第3章 日本の諸地域	○九州地方 ○中国・四国地方 ○近畿地方 ○中部地方 ○関東地方 ○東北地方 ○北海道地方	【知】 ○九州地方の地形や気候などの自然環境に関する特色を理解し、九州地方の自然環境を生かした産業や、防災の取り組みについて、さまざまな情報を調べ、まとめている。 ○地図や資料から、中国・四国地方の交通・通信網による結び付きの変化とそれに関連する産業や生活の変化について理解している。 ○地図や資料を活用し近畿地方の自然環境や歴史的景観の保全および、関連するほかの事象を読み取る技能を身に付け、近畿地方の地域的特色を理解している。 ○さまざまな資料を活用し、中部地方の三つの地域の産業の特色と変化を読み取るとともに、それぞれの自然環境の特色から異なる産業が発達したことを理解している。 ○関東地方の自然環境や産業の特色を、人口の集中との関わりに着目し地図や統計、分布図などから読み取るとともに、人口の集中と都市圏の拡大に伴う課題を理解している。 ○地図や写真などから、東北地方の自然環境や文化などの特色、産業の変化を読み取り、地域的特色や課題について理解している。 ○北海道地方の冷涼な気候の特色を理解し、厳しい自然環境のなかで暮らす人々の生活の工夫や、自然環境を生かして発展させてきた産業の特色を理解している。	【知】A・B
	(37時間)		【思】 ○九州地方において、特色ある人々の生活や産業が成立する背景を、自然環境や、大陸・国内との結び付き、地域の課題などと有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 ○中国・四国地方の結び付きの変化や産業の変容について、人や物の移動の量や方向、人々の工夫などと有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ○自然環境や歴史的景観の保全に関わる取り組みを、人口の分布や住民の生活および産業の変化などと関連付けながら、原因と対策、効果の面から多面的・多角的に考察し、表現している。 ○中部地方の三つの地域において、それぞれ異なる産業が発達・変化した背景について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ○②関東地方に人口が集中する理由を、第3次産業の発達のほか、他地域や海外との結び付き、自然環境の特色などに着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。 ○東北地方の人々の生活や文化、産業の発達と、自然環境や交通網の広がりとはどのように関わっているのか、多面的・多角的に考察している。 ○冷涼な自然環境の影響を受ける人々の生活や産業の特色を、他地域との結び付きや厳しい自然環境を克服するための工夫などと関連付けて多面的・多角的に考察している。	【思】A・B・C
			【態】 ○九州地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境と生活、産業との関わりについての課題を主体的に追究しようとしている。 ○中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に、交通・通信網の整備に伴う産業の発展や地域の活性化に向けた努力などについて、主体的に追究しようとしている。 ○近畿地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や歴史的景観の保全の視点からみた人々の生活や産業の特色を、主体的に追究しようとしている。 ○産業の視点からみた中部地方の特色について、自然環境の課題の克服に関する人々の工夫・努力に関心をもちながら、主体的に追究しようとしている。 ○関東地方について、よりよい社会の実現を視野に、人口の集中の視点からみた人々の生活や産業などの地域的特色を主体的に追究している。 ○東北地方について、よりよい社会の実現を視野に、自然環境や交通網の整備の視点から地域的特色を主体的に追究している。 ○北海道地方について、よりよい社会の実現を視野に、冷涼な自然環境を生かした人々の生活や産業の特色や工夫に関心をもち、主体的に追究しようとしている。	【態】A・B・C・D
3	第4部 地域の在り方	○地域の在り方	【知】 ○解決に向けて考察・構想したことを適切に説明するとともに、地域の実態や課題解決の取り組みについて理解している。	【知】A・B
(4時間)			【思】 ○地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこでみられる地理的な課題について多面的・多角的に考察・構想している。	【思】A・B・C
			【態】 ○地域の発展や持続可能な社会を目指すために、これからの地域の在り方について関心をもち、主体的に追究している。	【態】A・B・C・D

※年度当初から松尾が歴史的分野、中村が地理的分野の授業を行い、11月に歴史的分野の学習を終えた後は、松尾・中村ともに地理的分野の授業を行います。